

半促成スイートコーンの有望品種

山並篤史・岩本英伸・○白水武仁・吉田耕起¹⁾

(熊本農研せい業・¹⁾農林水産部農業技術課)

【目的】

本県平坦地域では、ハウス抑制トマト後の2月から栽培される春作メロンの収益性が、近年の価格低迷や重油高騰により著しく低下している。春作メロンからの転換品目の一つとして無加温で栽培が可能で、労働時間が少ないハウス半促成スイートコーンが考えられる。この時期の栽培は普通栽培に比べ先端不稔が発生しやすく、収量や品質の低下を招きやすい。そこで、先端不稔が短く品質、収量に優れた品種の選定を行った。

【材料および方法】

試験は2007および2008年に熊本県農業研究センター一業研究所で実施した。供試品種は第1表のとおりで、2007年は1月26日、2008年は1月25日に200穴セルトレイに播種し、14日間育苗後3葉期の苗を抑制トマト栽培終了後のビニルハウス内に、畝幅140cm、株間30cm、条間30cmの2条千鳥植え(栽植密度466株/a)で定植した。黒マルチ栽培で施肥量はN3.5、P₂O₅3.0、K₂O3.5(kg/a)とした。内張カーテンで保温し、2007年は3月26日までトンネル被覆も行った。試験規模は1区20株の2反復とした。

第1表 品種が収量に及ぼす影響

試験年	品種	平均収穫日 (月/日)	可販果収量 (kg/a)	雌穂重 (g)	雌穂長 (cm)	雌穂径 (cm)
2007	ゴールドラッシュ(サカタ)	5/1	121.9	282.9±58.9 ²⁾	17.8±0.8	4.9±0.2
	おひさまコーン7(タキイ)	5/1	112.2	267.5±43.4	17.6±1.1	5.0±0.2
	味来130(パイオニア)	5/1	118.3	266.9±37.8	19.4±0.9	4.8±0.2
	味来早房117(パイオニア)	4/30	111.2	232.9±45.8	18.6±1.2	4.6±0.2
	サニーショコラ(協和)	5/1	106.9	262.0±54.9	17.4±1.1	4.9±0.3
	恵味キュート(清水)	5/1	106.7	240.9±37.8	17.4±0.6	4.8±0.2
2008	ゴールドラッシュ(サカタ)	5/3	111.7	297.1±31.2	17.9±0.8	4.8±0.1
	おひさまコーン7(タキイ)	5/3	138.2	320.2±33.6	18.3±0.5	4.8±0.3
	味来130(パイオニア)	5/2	129.3	308.2±44.0	18.9±1.3	4.6±0.2

²⁾ 平均値±標準偏差

第2表 品種が品質および生育に及ぼす影響

試験年	品種	先端不稔 (cm)	糖度 (%)	草丈 (cm)	倒伏率 (%)
2007	ゴールドラッシュ	1.7±1.2	17.6±0.9 ²⁾	162.6±16.9	0.0
	おひさまコーン7	3.4±1.3	17.4±1.1	167.4±13.6	0.0
	味来130	3.0±0.9	17.8±0.9	178.3±10.0	0.0
	味来早房117	3.2±1.0	16.5±1.5	166.3±17.7	0.0
	サニーショコラ	3.2±1.5	16.4±1.2	159.1±11.5	0.0
	恵味キュート	2.7±1.6	17.6±1.0	157.7±12.5	0.0
2008	ゴールドラッシュ	1.7±1.6	15.7±1.1	203.1±13.4	0.0
	おひさまコーン7	3.1±1.7	15.7±1.4	196.2±11.9	45.0
	味来130	3.2±1.7	16.5±1.2	195.6±7.7	0.5

²⁾ 平均値±標準偏差

【結果および考察】

2007年：収穫日は‘味来早房117’が早かった。可販果収量は‘ゴールドラッシュ’が最も多く、次いで‘味来130’、‘おひさまコーン7’が多かった(第1表)。先端不稔は‘ゴールドラッシュ’が1.7cmと短く、その他の品種はいずれも3cm程度と長かった(第2表)。糖度は‘味来130’、‘ゴールドラッシュ’、‘おひさまコーン7’、‘恵味キュート’が17%以上と高かった。

2008年：可販果収量はいずれの品種も110kg/a以上で、特に‘おひさまコーン7’は138kg/aと多かった(第1表)。先端不稔は‘ゴールドラッシュ’が短く、その他の品種はいずれも3cm程度と長かった(第2表)。糖度は、‘味来130’が高かった。‘おひさまコーン7’は生育途中に倒伏が見られた。

以上の結果から、ハウス半促成スイートコーンの品種としては、先端不稔が短く収量、品質も優れる‘ゴールドラッシュ’が有望と考えられた。